

イムヌエル教報

2018.

7

1947年7月1日第三種郵便物認可 2018年7月5日（毎月5日発行）

イムヌエル綜合伝道団

No.864

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒 1:8）

マケドニアの叫びは今も

世界宣教局長 梅田 登志枝



「その夜、パウロは幻を見た。一人のマケドニア人が立って、『マケドニアに渡って来て、私たちを助けてください』と懇願するのであった。」

（使徒の働き一六章九節）。

パウロは第二次伝道旅行でトロアスにおいて、幻を見ます。それはマケドニア人が助けを求め、というものでした。その「叫び」にパウロたちは立ち上がりました。その結果、この地に次々と教会が誕生していたのです。

筆者はこの春、ケニアとザンビアを訪れ、医療宣教の実情を目の当たりにしました。そこには、「マケドニアの叫び」に応じて立ち上がり続けた宣教師たちの足跡がありました。

1930年代、ピルグリム・ホーリネス教会（1968年にウエスレアン・メソジスト教会と合同）はこの「叫び」に応じて、アフリカ南部、ザンビアに宣教師たちを派遣しました。片田舎ジェンボ村に、病院、学校、教会を建設し、50年代には神学校の働きも開始します。

ところが1964年に独立したザンビア政府は、政策の一環としてジェンボ病院をクリニックに格下げし、医療機器を都市の病院に分配し、宣教師たちを国外退去にします。それから50年余り、クリニックは地域の人々の必要に応じて、常駐医師のないまま、わずかな

看護師とスタッフで医療活動を続けてきました。

特に近年、アフリカの中でもHIV（エイズ）孤児が多いと言われるこの地に、私たちの教団は2010年から医療宣教師（看護師）たちを派遣しています。これは歴史に翻弄されながらも、いつの日かキリスト教病院としての復帰を願う教会と人々に、一筋の光となっています。10代の母親から赤ちゃんを取り上げながら語った宣教師の言葉が耳に残ります。「普通分娩で良かった。何かあったら、2時間先の病院まで搬送しなくてはならないから。」このように「クリスチャン医師を送ってください」との祈りと叫びは、なお続いているのです。

宣教の歴史は神さまの御業の記録です。また「マケドニアの叫び」に応じて立ち上がった宣教師たちと、それを支え続けた教会や人々の足跡でもあります。イムヌエルは綜合伝道団として、これからも時代と人々の「叫び」に柔軟に応えながら、十字架の福音を伝え続けることでしょう。

「私たちを助けるために来てください。誰かを送ってください。献げてください。祈ってください。」この「叫び」に対して、私たちが、今、立ち上がって出来ることは何でしょうか。私たちがそれに応えるとき、神さまの御手によって宣教の歴史は確実に動かされてゆくことを信じましょう。

目次

- マケドニアの叫びは今も……梅田登志枝……1
- 夏期聖会の招き、とにキャン案内、宣教委員会……2
- KJHA青年大会、YS案内、出版事業部……3
- 海外トピックス、国内教会局、読書のひろば……4
- JEA 総会、日本青年伝道会議、燭台……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～11
- 公報、消息……12

Immanuel

夏期聖会へのお招き

大胆に恵みの御座に 祈り合い、励まし合う聖会

国内教会局長 岩上祝仁

「ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいで、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。」(ヘブル四・16)

今年も聖会の季節を迎えました。夏から秋にかけて全国各地地区聖会が開催されます。ぜひご出席ください。

聖会とは何でしょうか。第一に、聖会はみことばにあるように「恵みの座」です。聖会に一度も行ったことがないという方もいらっしやるでしょう。だからこそ、今年はずいぶん出席してください。普段の教会の営みとは違う、大きな神さまの恵みが備えられています。この聖会の準備のために先生方や信徒の皆さまによって祈りと準備が進められています。講師の先生も祈りつつ備えておられます。何よりも主イエスさまがあなたを恵もうと待っておられます。

最後に「私たちは」です。聖会の恵みの一つは、普段会うことのないクリスチャン仲間とともに集いに出席することです。今年から信徒局が創設されました。「いっしょに」信仰を励まし合う仲間作りを目指しています。信仰の友と、主が備えてくださった素晴らしい機会です。どうぞ大胆に主の恵みを期待して、それぞれの地域の聖会にお励みください。

第二に神に近づく場所です。聖会の特徴の一つは、普段の生活か



教会でご案内ください!

とにキャン! これが僕らの歩む道



仙台教会 細田恒太郎

いつも「とにキャン」のために祈りくださり、様々な形でご協力頂いています。心を心より感謝申し上げます。この夏も第11回目を迎える「とにキャン」が長野県聖山高原チャペルにて開催されます。今年「The Goal」というテーマが掲げられています。いつの時代も青年は自分の人生の意味を深く考えるように思っています。自分は何のために生きているのか。生きる目的は何なのか。しかし、物質的に満たされ育っている今の時代にあつて、そうした意味は短期的にも長期的にも、ますます見えにくくなっているように感じます。洗礼を受けクリスチャンとなつてはいても、イエス様を信じていれば死んだ後は天国に行ける、感謝だというぐらゐの信仰理解に留まり、今自分が生かされている意味については漠然としていて、毎日をとりとめもなく過ごしている方もいるかもしれません。そのような時



2017年8月の第10回とにキャンの様子

代を意識しつつ、今年は神様の視点から見た人生の全体像がキャンパーの心に御言葉を通して届けられればと願っています。講師は2014年にもお迎えし、キャンパーからもスタッフからもたいへん好評だった高校生伝道のエキスパート、川口竜太郎師(エホバ代表スタッフ)をお迎えします。もちろん今年もノンクリスチャンもクリスチャンも楽しめるプログラムを準備しています。また分科会、選択レクの内容もそれぞれに新しい内容を加えていっそう充実したものとなっております。既に各教会にポスター、チラシ、申込書、スタッフ募集要項等が送られています。ぜひ、教会の対象となる方々にお声がけ下さり、励まして送り出して頂ければ幸いです。また何よりも事故や怪我などから守られ、教団の未来を担う青年方に良き信仰の友が与えられ、相互に信仰が建て上げられていく幸いな時となるよう、お祈り頂ければ感謝です。

神学・宣教委員会から

異端・カルト問題 注意喚起と対応を

呉教会 内山忠信

宣教部会は、異端・カルトの問題に取り組み中で、各教会への注意喚起として、年會毎に「異端・カルトハンドブック」や「異端から教会と家庭を守る」を配布しました。

異端・カルトというと、統一協会(現在は、世界平和統一家庭連合)、モルモン教、エホバの証人と考えます。実は、それ以外の様々なカルトが高校生、大学生、青年の獲得のために、正体を隠し活動しています。大学当局も注意を呼びかけています。他教団で起こった複数の事例を聞いています。

また教会の中にいつの間に入ってきて、牧師や信徒を取り込み、教会を乗っ取る事が起きています。あるグループは、各教会の牧師に書籍を送りつけています。正しい教理を学び、祈るだけでなく、異端・カルトについて、先に配布した資料から学ぶ機会を持つことをお勧めします。

今後、日本イエス・キリスト教団 宣教局 異端・カルト研究室と連携し、注意喚起、問題発生時の対応を考えています。

関東聖化交友会 青年大会 次世代のキリストの弟子たち テーマは「回れ右！」

王子教会 小林 佳

去る5月27日(日)の夕方5時半より、チャーチ・オブ・ゴッド川崎キリスト教会にて、関東聖化交友会主催の青年大会、「プレイズ&トーク」が行われました。これは5月、10月と年2回行われますが、春の大会では特に青年たちにとってホットな話題をテーマに選び、またメッセンジャーもそれにふさわしい器が選ばれています。今回は「回れ右！」というテーマのもと、暴力団幹部から覚醒剤使用により服役し、その際にイエス様を信じて罪を悔い改め、後に牧師に召された進藤龍也先生をお招きし、力強いメッセージを語っていただきました。



進藤先生はまず最初に、青年たちに向けて「今日ここから帰る時には、是非キリストの弟子となつて帰ってほしい！」と語られ、その後メッセージを取り次いでくださいました。内容はとてもシンプルかつ実務的で、神中心に生きることの大切さや聖書のみことばに触れることの大切さなど、ご自身の経験を交えながらとてもわかりやすく語ってくださいました。また集会終了後も青年たちのフォローアップに回ってください、多くの青年たちと分かち合い、一人ひとりに祝福を祈っておられた姿がとても印象的でした。

今回は約90名の青年たちが集いましたが、将来的には毎回100名以上の青年に集ってもらえるような集会になればと願ひ、祈りつつ青年委員会の先生方と共に運営に励んでいます。

また秋の本大会は、今年は海外からの講師ではなく、各地域で日本人講師を迎えて大会を持つことになっていきます。全国の聖化大会が祝されますように、また各交友会を通じて教団・教会を超えた良き交わりがなされますようにお祈りください。各地の聖化大会にぜひご出席ください。

また秋の本大会は、今年は海外からの講師ではなく、各地域で日本人講師を迎えて大会を持つことになっていきます。全国の聖化大会が祝されますように、また各交友会を通じて教団・教会を超えた良き交わりがなされますようにお祈りください。各地の聖化大会にぜひご出席ください。

第6回 全国ユース・ステーション

Confidence(信頼、自信)

8月12日(日)~14日(火)



板橋教会 寺村秀嗣

●日程 8月12日(日)夜~14日(火) 午後
●会場 改修工事が進みつつある聖宣神学院で開催します。
●テーマ 「Confidence (信頼、自信)」
自分の信仰について、いつも自信を持っているかと思われたいら、すぐにハイと答えられない……だけれども経験する信仰の浮き沈み……ともに分かち合い、聖書に学び、主に語っていただくことで、自信への一歩を踏み出したいと願う青年たちの祈りから与えられたテーマです。

●主講師 教団代表の内山勝先生(名古屋教会牧師)をお迎えします。2回の集会(12日、13日)でメッセージを語っていただきます。
●プログラム紹介(申し込み案内から抜粋)
(井戸端カンファレンス)~レクチャーとディスカッション~
全国から集まった仲間たちと、井戸端会議のように気楽に、でも腹を割って本音で語り合います。う！みんながどんなことを思っているのか、自分はどうか考えているのか、ぶつけ合えば、クリスチャンとしての自信もついてくるはず。どんなテーマを話し合うのかは当日のお楽しみ……
(自分(一人)時間)
2日目のレクの後、自分ひとりで過ごす時間をもちます。聖書を読むもよし、神さま、自分自身と向き合うもよし、新たに出会ったクリスチャン仲間について思いを馳せるもよし、聖書を読んでもよし、寝ちゃってもよし！

前回の全国ユース・ステーションのひとこま

●参加費 全日程参加で社会人11,000円、学生9,000円です。交通費補助もあります。詳しくは、6月中旬に各教会にお送りしてある参加申込書をご覧ください。申し込み締め切りは7月15日です。

ご参加をお待ちしています。

出版事業部から
伝道のツールとなる書籍を発行
聖書を読もう!
新たな取り組み

出版事業部 川村和臣

出版事業部の働きのためにお祈りを感じたいと思います。
出版事業部では現在、求道者の救い、受洗への備え、その後の成長の手助けとなるような一連の書籍を企画しています。
すでに成長の助けとなる「信仰教理問答」を出版しましたが、この夏には求道者向けの書籍として「こころCafe」を発刊します。
関係者にもプレゼントとして手軽に渡せるものとなっています。ぜひ、お用いください。年末には聖書通読の手引きとして「わが道の光」(仮称)、また、来年の年会を目標して受洗への備えを目的としたテキストを企画しています。それらを通して「みことば」に基づいた信仰が養われるように願っています。

電子書籍も過去の良書などからリストアップし、順次発行していきます。こちらも活用ください。
新しい聖書は5月末で教団内、各種計3876冊が頒布されています。品切れなどご迷惑をおかけしましたが、現在、在庫は確保されています。なお、伝道版、バイブルミニも秋頃の発刊が予定されています。

国内教会局から

教会建設の務めに
潤いの源として

近年梅雨なのに雨が降らないと言われます。人の潤いた心のうめきに自然界も共鳴しているのでしょうか。天地創造の始めから潤いは祝された世界を象徴してきました(創世記二・6他)。福音もまた人の渇きに応え



て余りある潤いです。渇く苦しみを知っていれば、それだけ潤いの喜びを届けたいと望むものでしょう。私たちの伝道の動力ともなりましよう。「わたしのものに来て飲みなさい」と招かれる主も十字架上でこの上ない渇きを味わいなさいました(ヨハネ一九・28)。

教会が潤いの源となると、いつか説教の果たす役割を深めてみてはいかがでしょうか。(葛田崇志)

報告書は中国について、習近平国家主席への権力集中が進んだ昨年10月の共産党大会前から宗教活動への締め付けが強まり、現在も継続中であると指摘した。米政府は北朝鮮や中国について、イランやサウジアラビアとともに、信教の自由を著しく侵害し

ている「特定懸念国」10カ国に含めている。独ライプチヒで「バッハ音楽祭」ドイツ東部ライプチヒで6月8日、同国の作曲家ヨハン・ゼバ



海外トピックス

初日から中心部の広場では、市民ら数百人がビールを片手にバッハの美しい音色に聞き入った。バッハが音楽監督に就任してからは毎週、年間約50曲のカンタータを作曲・演奏するという精力的な活動を行ったトーマス教会で行われたオーブニングコンサートでは、ゲバントハウス管弦楽団や地元合唱団によるコンサートが行われ、パイプオルガンによる「トツカータとフーガ」や、バッハの影響を受けたメンデルスゾーンの曲も演奏された。同教会は「マタイ受難曲」が初演され、また彼の墓があることでも知られる。「音楽祭」自体は20世紀に入ってから初めて開催されたが大戦や冷戦の影響で中断し、1999年に再開されてから今年が20回目。音楽祭を主催する「バッハ資料財団」は、日本人も多く訪れ、欧州外からのチケット購入者は米国内に次いで多いとしている。(平瀬聡樹)



今年も「祈りのネットワーク2018」をお届けすることができました。皆さまのご協力を感謝いたします。

祈りのネットワークの一冊の本を読むように、本誌を手にした皆さまは、日付に沿って各教会の課題をご覧になりながら、毎日お祈りを捧げてください。今、私は真新しい「祈りのネットワーク」を手にして、まず一冊の本を読むように、さっと目を通してみました。すると、各教会の先生方、信徒がたや子どもたちが写っている写真、そして教会の外

観の写真を目にしたがら、それぞれの現地で主と共に喜んで戦い、懸命に労されているお姿が思い浮かんで、本当に尊い働きがなされていることを覚え、今年も祈ろう!という思いにさせられました。ネットワークの大切さ前任地の京都でも、またここ久留米でも、私の小さな伝道者としての歩みを支えてくれていた大切な営みの一つとして他の教団教派の先生がたのお交わりがあります。それぞれの牧師会での祈りのネットワークにどれほど支えられてきたことでしょうか。今もその恵みを感じています。全国に113教会ある私たちの群れは、首都圏や関西圏は別として、各教会がそれほど頻りに交わる機会はないでしょう。あるいは顔を合わせる機会はたくさんあっても、なかなか祈り合う時間を取ることが容易でないかもしれませぬ。そんな時、毎年手にする「祈りのネットワーク」の一冊の価値は大きいと思います。作成された当初、「一つの情報ブックの役割も果たせれば」というコンセプトもありました。各教会にあてがわれたスペースは小さな枠です、わずかな情報量しかありません。しかしその中に含まれている各教会の奥にある問題意識や、とても三つでは出しきれない祈りの課題などを読み取りつつ、今年もどうか、皆で祈り励まし合いたいと思ふのです。祈りのご協力をお願いします。(吉村和記)

読書のひろば

祈りのネットワーク

2018年度版発行

出版事業部刊 定価二〇〇円(十税)

祈りにご活用を!

JEA 第33回総会……

第7回日本伝道会議は2023年に
開催地は東海地域に



教団代表 内山 勝

去る6月4日(月)～6日(水)、つま恋りゾート彩の郷(静岡県掛川市)で、第33回福音同盟(JEA)総会が行われました。会員・協力会員を合わせて130名ほどの出席者がありました。

当教団からは、岩上祝仁師、葛田直毅師、川嶋直行師、葛田聡毅師、内山が代議員として派遣されました。協力会員として矢木良雄師(PBA)が出席しました。

開会礼拝では、廣瀬薫理事長(日本同盟基督教団)が、ピリピ二1:5より「50周年を超えて、福音の信仰のために」と題して、キリストにある一致を強く訴えられました。

このたびの総会の目玉は、2023年に予定されている第7回日本伝道会議(JCE7)の開催地を、「東海地域」に決定したことでしょう。すでに第6回の神戸大会の折に、次の候補地は「名古屋」と言われていましたが、2年の調整を経て正式に、そして名



財政難の実態が明らかとなり、健全化に取り組む訴えもなされました。岩上祝仁師が総会議長として奉仕されことも付記します。

古屋より広い地域を表す「東海地域」とされました。JCE7のテーマ・理念についてのグループディスカッションの時間も設けられ、活発な意見交換がありました。プレ企画として9月24～25日に「宣教フォーラム@in東海」(名古屋)が予定されています。

2日目の夜に、「次世代宣教ネットワーク・日本青年伝道会議(NSDII)」のプレゼンテーションがありました。青年委員長の葛田聡毅師も発題者の一人でした。11月22日(木)～24日(土)に山崎製パン総合クリエイションセンター、OCCなどを会場に開催を予定している「NSDII」への参加アピールに、教団としても積極的

初日は平日ですが、教会・教団青年担当者や青年宣教に関わる諸団体が集合する青年サミットに始まり、夜は青年大会。2日目は祝日を使って講演・分科会・夜の青年大会まで終日のプログラム。3日目は社会人・学生・中高生に分かれた世代別集会を行います。「神の国マインドに生きる」というテーマが、次代の日本の教会ではスタンダードでありますように。すつと青山から15年、JEAとその青年委員会が青年大会を積み重ね、6年前のNSDIを経て、今回のNSDIIに至ります。既に各教会に青いチラシが届けられていると思いますが、今月中に、さらに詳しいご案内が届けられると思いますので、是非ご覧の上、関心を持ち、祈り、青年を送ってください。

日本青年伝道会議は11月に

期待し、祈り、協力し
青年をNSDIIへ
次世代宣教の
新たなうねりを

堺教会 葛田聡毅



断捨離、どうする？

最近、資源ゴミの日に迷わずに古新聞を出せるようになりました。それまでは、スクラップしなかつた気になる記事をいつか探し出そうと、処分するのを惜しんでいましたが、でも、もうそんな時間はないと諦めたからです。一般の書籍は殆ど買わないので、情報源の少ない私にとって新聞は今の時代を教えてくれる手段であつて、ある程度の知識や理解を提供してくれます。特に風刺の効いた社会寸評や、ズバツと鋭く突っ込む川柳に感心します。表舞台ではどのように画策しても、名もなき庶民はすべて見抜いているのだよと痛快です。▼ところで、これまで切り抜いた料理記事(殆どレシピ通りに作ったことはない)、掃除の仕方(いつかしようと思う)、草花の育て方やハーブの使用法(夢見るけど)、整理整頓のノウハウ(なるほどと感心)、等々ため込むだけでした。興味をもつた記事は忘れた頃に目にする面白いのですが、すぐまた忘れれます。しかし、その中で私の心に残るのは投稿された短歌です。人生の哀歓を短い言葉に込めた短歌は心が共鳴して深く残ります。うろ覚えではなく

その言葉を正確に留めておくために切り抜いておけばよかったと後悔するものもありました。▼最近多く目にするのは持ち物の処分の記事です。すっきり片付け術、生前整理、実家の親の片づけなどだんだん私の身辺に迫ってくる勢いで特集が組まれていきます。何もかもきれいさっぱり捨てる生き方を勧めるかと思えば、反対にそこまですなくても良いという意見もありました。その中で「老年を迎えたら、思い出の品々は潔く捨てようと呼びかける本が刊行された。」とありました。高齢者にはそれが一番ネックかもしれません。また、あれも知りたい、この情報もという欲求は、他の様々な欲望と並ぶ「欲望」の一つだという指摘がありました。知的なことは少なくとも聖域と思っていたのに「欲望」という禍々しいレッテルを貼られたのです。▼考えてみれば、エバが惑わされたのは知的好奇心でした。知識を得ることが聖書を読んだり、お祈りをする時間を侵食するなら「欲望」です。「まず神の国と神の義を求めよ。」を心に刻んで、残る日々を大切に過ごしたいと思えます。(高梨侑子)

巻頭言

世界宣教は神のプラン



世界宣教局
梅田 昇

この年も前半を守られました。これから夏期聖会、キャンプ、とにキャン、ユース・ステーションなどの夏の営みに入ろうとしています。これら一つひとつの集いに、また集う一人ひとりに聖霊の顕著



広げた翼

Immanuel
His Wings

Department of World Missions

世界宣教局

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

な働きを期待し臨ませて頂きたいものです。主キリストは復活の後、オリブ山から昇天する前に大切なメッセージ、宣教命令を語られました(マタイ一八章、マルコ一六章など)。さらに使徒の働き一章八節には「聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります」とあります。これは聖霊の働きの約束です。

一、聖霊の約束
まず覚えたいことは、この約束が主を否んで裏切るような無力な弟子たちに語られたことです。聖霊は信者の内に内住して下さるお方であり、もし私たちがこのお方を信頼し委ねて生きるなら、

この聖霊が私たちの思いとことばと行動を導いて下さいます。霊的でない人は自分の思い付きや持論を述べます。また自分自身の何かを頼りにして生きて行こうとします。しかし霊的な人は常に神様の助けを仰ぎ、神様の思いはなにかを常に求め続け、そのように行動します。聖霊に満たされる意味を正しくとらえて、日々を生活した

二、力の約束

信者はこの世にあって戦いがあり、艱難があります。ですからこの世を神の子として力強く生きていくための霊的力が必要です。聖霊から与えられる力は外的な力ではなく、内から発せられる内的力です。罪に打ち勝ち、光の中を歩み続ける力です。そのためには肉なる自分ではなく、聖霊に拠り頼んで歩むことが求められます。

三、証人としての約束

証人とはある出来事を目撃し、法廷で証言する人のことです。法廷に召喚された証人がでまかせの証言をしたのでは困ります。聖霊の人は、主の愛と恵みの証言者なのです。主の約束を見ると、地の果てにまで主の証人となれるのです。主キリストは地の果てを覚えながら、置かれた場所、任地で、主の証人として真実に歩ませ頂こうではありませんか。



CHINA

香港

鹿島義喜・朱蕙芬* 2018年6月3日

香港イマヌエル教会は、9年前、2009年6月7日に第1回目礼拝を捧げました。海外の教会なので、多くの出入りもありましたが、10年目に入ろうとしています。「私の神は、ご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たしてください。」(ピリピ四章19節)のみ言葉を握りながら進んで参りました。香港には他の日本語教会もありますので、興された初めからお隣の地域を祈りの中に覚えてきました。2013年にはお隣りへの働きが始められ、はじめは、大陸でも以前は何もなかった漁村で、教会も大きく成長し拡大してきました。そこで2016年からは、古い町ですが、香港から片道4時間強の所へと導かれました。はじめは数人の家庭集会でしたが、大きく成長し、今は公認教会に属しています。私たちは日曜日には香港の礼拝に戻り、奉仕があるので、一度も礼拝には参加したことがあ



りませんが、日曜日の朝は2回ほどの礼拝が捧げられ、120名ぐらいの方が、教会学校の方も30名ぐらいの方が集っておられます。木曜日の午前中の祈禱会には加わり一緒に祈りを捧げさせていただいています(写真)。
最近、外国人の出入りが以前になく厳しくなってきました。指紋検査と顔写真は毎回撮られるようになってきましたし、外国人の宗教的活動は許されていないので、益々上からの知恵が必要です。そのような中、6月9日には、COMAの団体のひとつであるAFJが初めての試みですが、日本人を対象にゴスペルコンサートを計画されています。外国ID所有者のみの集会となりますが、お祈りいただける感謝です。中々細かい報告が許されない状況ですが、今年、久しぶりに夏期聖会に参加させていただき、お交わりをいただければと祈っております。主の最善の導きをお祈りください。



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2018年6月5日

私たちが二年間滞在していた山岳域シニシップにあるグレイト・マウンテン・ミッションでは長年祈って来た会堂建築が完成に近づき、5月に献堂式がもたれました。常喜は、式辞説教の当務にあたるウエスレアン教会代表ギリアモ先生を宣教車でお連れし、参加しました。参加者が新会堂に入る前に献別の祈りが捧げられた後、常喜とカナダから駆け付けたコリンさん、そして初期バイブルカレッジの卒業生2人がリボンカットを執り行いました。参加者は120名ほどで、以前なら満堂となる人数ですが、新会堂は余裕をもって収容することができました。常喜はチャペルで奉仕しました。今月のテーマは「神の計画」でした。今回は、説教というより自分がどのようなかとして宣教師としてここにいるのかを証しました。3月にウィクリフの宣教チームがロザリスに訪問してくださいました。自分が神学生のように日本にウィクリフが開催した「ジャーニー」という宣教師疑似体験ツアーで、神学校の教師として奉仕をしたことを思いだし、神様のご計画の深さを知る機会となりました。

学校のプロモーションのために常喜と恭子は宣教車に3人の学生を乗せ、1時間半離れたカバナトゥアン教会を訪問しました。この教会では青年たちによってコワイヤーが編成され、合唱がなされ、元気で明るく大きな声が会堂に響き渡りました。恭子はタガログ語と英語でアピールし、常喜はダニエル書から「謙遜」についてメッセージをしました。卒業式を3週間後に控え、実習に出ている4年生が帰校して来ました。皆、健康も守られ、それぞれの理想と現実の間の孤独を通り抜け、卒業の準備が始まりました。今年も4年生から3年生へ「責任の鍵」と呼ばれる両手で抱えるほどある鍵をかたどった盾が贈られ、新しい生徒会役員が受け取りました。数年前から牧師訓練学校だった聖書大学はフィリピンの文部科学省認可の学校として、聖書の科目も学ぶキリスト教系の私立大学になりました。今までは卒業生は全員教区の牧師、教師になっていくのが当たり前だった中で、最近特に普通に就職していく卒業生の数も増えてきました。どの教区も5年計画で開拓場所を5箇所、10箇所増やす目標に向かって邁進する中で、それに追いつく数の献身者が起こされていないことが大きな課題の一つです。教区によっては、信徒伝道師の方々にも牧会を委ねている教会もあります。今年の卒業生、来年の卒業生がどのくらい牧師として残っていくのかわかりませんが、一人でも多くの、教会を支え弟子を生むクリスチャンがここから巣立っていくことを願っています。5月上旬にロザリスとシニシップの往復運転してから常喜は体調がよくない状態が続きました。始めは、長い運転から来る疲れと腰痛、それから風邪、便秘などと風邪薬を飲んで休んでいましたが、倦怠感は続き、5月末に血圧を測ってみると上が160台、下100台と高血圧であることが分かり病院で診察、検査してもらいました。コレステロールと腎機能の数値が高かったため、適度な運動と食事の節制を必要と医者から診断されました。



分休休暇の後、今期最後の勤務に二週間、復帰しました。今回は医師のみのチームである分、人数がますます減っているなかでの執刀でした。また心肺装置の回路の完成にまだ時間がかかっています。また手術に際しての必要物品が不足している状態での働きです。手術に際して必要な物資を倉庫で探していたとき丁度、不思議なように代替品が送られてきて主の御名を崇めました。そして数日の間に外部からの助っ人も与えられ、大変感謝でした。またこの勤務中に、IGM教会から頂いた献金で、点滴スタンドとベッドを囲うためのスクリーンを購入致しました。スタッフ一同、IGMからのサポートを心から感謝しておりますことをお伝え致します。また包帯が倉庫からなくなりそうになったとき、別のIGMの教会から不思議なようにその必要が満たされ、主の御名を崇めた瞬間がありました。



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2018年6月8日

最後の勤務も終え、いよいよ帰国の準備に入りました。1泊2日でナイロビに上京し、その途中で、世界宣教局のズーム会議にも出席が許されました。1泊ナイロビで宿泊した後、翌日の朝8時半から空港に到着し、移民局の列に並びました。既に300人待ちという状態で、少し焦りましたが、それでも列が動き続け、午後1時には出国の手続きが一通り終わりました。しかし、突然の空港からの指示でケニアの国民健康保険の提示が必要となり、急ぎよ、フライトを1日延ばす羽目になりました。25キロほど離れたソティックの町へ出かけ、手続きを済ませ、ようやく、ナイロビからの出国手続き完了という運びになりました。突然の指示の原因は、最初の登録番号が前のパスポートだったため、その確認作業が必要とのこと。国民健康保険の提示が入ったこととです。色々ありましたが、完了できて感謝でした。今、現在、ナイロビの空港にて、この原稿を書いております。ここまでの奉仕に皆様の支えと祈り、また主ご自身のお支えがあったこと、特に今回の奉仕では火の中を通る試練を通過し、主ご自身に頼り頼まざるを得ない状況に置かれてきましたが、ここまで守られ支えられ唯々主の御名を崇めております。あと数時間でナイロビの空港から日本に向かう予定です。皆様へ直接ご挨拶ができるのを心待ちにしております。感謝と共に。



TAIWAN

台湾

平瀬義樹・光世*2018年6月8日

主の御名を心より賛美申し上げます。いつも背後にありまして、尊いお祈りと温かいご支援をありがとうございます。台湾では、梅雨入りと共に、最初の1週は、バケツの水をひっくり返したかのような集中豪雨でしたが、それも数日のみで、ことはカラカラの空梅雨となっています。北部や南部では水源地の貯水量が限界水位を大きく下回り、深刻な水不足となっています。

その前後に、台南と台中で2人の愛兄弟を天にお送りしました。1人は、長い間、お祈り頂きました台南の蔡紅玉姉です。日本語集會に集まれるようになり7年半となります。数年前に、心の準備が整われ、入信されましたが、同居している家族の良き理解を得られるまではとの思いが強く、洗礼は受けておられませんでした。毎月の集會に、柔和な笑顔で集われ、「神様のご加護で」という証しが「私の心はすっかり決まっています。イエスさまを信じています。」と変わり、最後は病床洗礼を受けられ、数日後、この地上でのすべての使命を終えて御国に凱旋されました。



6月3日には、深川教会から4名のゲストをお迎えして特別礼拝を守りました。3名の姉妹方(西潟節子姉、平田由紀子姉、福山哲子姉)が信仰の証しを語ってください、川嶋範子姉が「主にあって喜ぶ」(ピリピ四章4-9節)というテーマで分かりやすくみことばを語ってくださいました。礼拝後には、ゲストを囲んでの愛餐会、恵みの語らいと交わりとひと時となりました。

お祈りの課題

台湾(平瀬)

- 会計報告5月分
宣教献金 一、七二七、〇四〇円
月平均 一、九五二、一八一円
- ◆愛する方を天に送られたご遺族に、神様の愛と慰めが豊かに注がれますように
- ◆毎週もたれている「台南日本語礼拝」の確立のため
- ◆酷暑の中、私たち家族の健康と生活のみ守りのため
- ◆フリーピン(豊田)
- ◆夏休みに入った学生たちのため
- ◆6月に卒業を控える卒業生のため。新しく任命される地で尊く用いられますように
- ◆事故、事件、けが、過ち、災害から家族が守られますように
- ◆子どもたちの学びのため
- ◆パラワン島での会合で常喜が2回のチャペルを任されています
- ◆カンボジア(葛田緑乃)
- ◆本部や宣教師館の完成が今年中と確認。全工程に主の御手が置かれ、スムーズに事が運ばれますように
- ◆ヴァンディ先生の働きのため。御夫人のテス先生が現在教鞭をとる大学から別の大学への就職を祈っておられます。門が開かれますように
- ◆宣教師の購入のため。主の備えをお祈りください
- ◆香港(鹿島)
- ◆10年目の歩みの中、一人ひとり

- にみことばによる霊的成長が与えられ、また新来会者が増えられ、求道を継続できますように
- ◆台風シーズンの中、礼拝が守られ、牧師の香港と広州を往復する生活が支えられ、日本での夏季聖会に参加できますように
- ◆香港と近隣地域での邦人伝道の働きが広がられますように
- ◆ザンビア(根廻)
- ◆スタッフが少ない中で働きが守られるように
- ◆働きを通して神さまの御名が崇められるように
- ◆ジエンボの生活が守られるように
- ◆ザンビア(富澤)
- ◆再赴任において現地への順応がスムーズにできますように
- ◆新しい奉仕の関りに主の助けと導きがありますように
- ◆ケニア(葛田就子)
- ◆第5期の締めくくりが守られた感謝
- ◆帰国後の巡回ため
- ◆テヌウエク病院の働き人(ルカ一〇・二) 特に麻酔科と検査室の必要が満たされるように
- ◆グローバルユースミニストリー(葛田康毅・由理)
- ◆7月より始まる聖日午後の定期集會(会場:東京ユニオンチャーチ2階)のため
- ◆主要な拠点に予定されているGTC(表参道)の建築が順調に進むように(来年5月完成に変更)GMVのスタッフが一致して進めるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

赦しく恵みがわかる

院長 ● 河村 從彦

「そういう人たちをもう一度悔い改めに立ち返らせることはできません」(ヘブル六・6)

強烈です。不安になる方があるかもしれません。一度光に照らされ、恵みを味わい、それで離れた私のこともかもしれない。思えば、イエスさまを信じたあとで、神さまに背いたこともあった。一生懸命悔い改めたけれども、自分はどう受け入れられないのだろうか。このみことばは、文脈的に読まなければならないみことばの一つです。ポイントはこの文章がだれに向けて書かれたかです。「死ん

だ行いからの回心」や「手を置く儀式」などを「初歩の教え」と感じる人たち、わたしたち異邦人と違うヘブル人です。わたしたちは神さまの恵みから離れると、キリスト者らしい生活をしなくなるかもしれません。しかしヘブル人たちは恵みから離れると、見た目はとても信仰的な、彼らにとつての初歩に戻ってゆくのです。おそらくヘブル人の手紙の記者は、新しい時代が始まっていることを仲間知らせてたくてこの手紙を書いたのだと思います。恵みで生きることを知ったはずなのに、どうして初歩に戻ってしまうのか。そうい

う人たちを悔い改めに立ち返らせることは難しいということを書いたかったあまり、表現が断定的になったのかもしれない。

このみことばを、信仰的真理にしてしまう必要はありません。赦しという点で完璧な十字架が立てられた以上、イエスさまをもう一度十字架につけることができる人など存在しません。十字架はただ一度で十分だったはず。悔い改めの機会も赦しも無限です。奉仕は資格ではありません。赦してももう以外になかったというアイデンティティこそ、謹んで奉仕に当たらせていただく心のありようです。奉仕の生涯を踏みだしてからも同じです。失敗して、そして何度も赦されて、教えていただいで、恵みがわかるとは宗教的になることではなく、そういうことだと思えます。



インターン生の金成星美神学生と大谷のぞみ神学生

神学エッセー

キリスト者生涯の点と線 ②

「今」神に触れる信仰を



岩上祝仁

今月は信仰者の線です。線とはどういうことでしょうか。数字では線とは点が集まったものです。一瞬の点(今)が集まって線になる。信仰者の線とは、今しか生きられない私たち(点)が、生涯をかけて「人格」(線)を形成してゆくということに他なりません。人生の線は現在という点を境にして、「過去」という線を人生に引くことです。同時に未来への希望という線を見ながら、今をどのように生きるのか、今をどう過ごすのか、キリスト者としての信仰と決断(点)が試されている、と言えるでしょう。今を生きたとき、人である私たちは自分がどのような歩んできたかを記憶して、「今」を生きます。そして今さえも、次の瞬間には過去の自分として「人格」の中に刻んでいくのです。

そこには、思いや考えという思考、その時に自分はどう感じたのかという感情、こうありたいかという願望、そしてどのように行動し体験してきたのか、が

あります。それらを「線」(人格)として形づくっていきます。私たちは、その線(人生)のどこかに、罪を悔い改めて主イエス・キリストの十字架と復活を信じ、救い主として心に受け入れて、信仰の歩みを始めた一点を持っています。クリスチャン・ホームで育った人の中には、主イエスは自分にとって神であり、救い主であることを疑ったことはないという人もいます。そのときは、主の十字架と復活が自分の罪のためであったと、いまでも信じ、告白できるかを確認すれば良いのです。

私の人生の線の中に、確かに主は働いてくださって「救いの信仰」を持っている、この恵みの事実こそが、今を生きる信仰者の私たちに何よりも大切なことです。それとともに、十字架の恵みによって、神の前に真実に生きることを決意しているのでしょうか。言い換えると、「悔い改めの実」を結び続ける生涯です。十字架による罪の赦しを経験したクリスチャンは、神にあって生きることを、信仰によって選択し続けているのです。過去を振り返るならば、神に逆らったり、神に対して反抗的な思いや態度をとっていたかもしれません。これは、主イエスを信じ、救い主として心の中に受け入れた者にはふさわしくありません。キリスト者には主の愛と聖さ(きよめの恵み)を求めて生きてゆくという線の方向性が聖霊により刻印されています。

◆インターンの学びの中で

何を恐れているのか

インターン生 金成星美

「彼らの顔を恐れるな。わたしはあなたとともにいてあなたを救い出すからだ。―主のことは―」

(エレミヤ一・7)

いつも神学生のためにお祈りくださりありがとうございます。今年度、ついに最終学年である4年生となり、インターン実習がはじまって3か月が過ぎました。

来年春の卒業を前にしたこのインターン実習では、教会で生活し、聖日礼拝、祈祷会を中心とした教会の働きに加えていただき、伝道者としての日々の歩みと、ご奉仕を実践的に学ぶ期間となります。

そんな実践の学びの中で、私が思ったことは、自分の中に神さまへの不信が、まだまだあるということでした。インターン実習が始まり、はじめにぶち当たった私の問題が「尻込み」でした。ここぞという時に臆してしまう自分の姿に落胆していたとき、ちょうどある集会で、「尻込み」の原因が神さまへの不信にあると語られました。そしてエレミヤ書一章のみことばが示され、私は一体だれの顔

を恐れていたのかと考え、「私が恐れるべき顔は神さまの御顔しかないのに、何をやっていったのか」と悔い改める時となりました。神さまがここに共にいてくださるならば絶対に大丈夫なんだという信仰をもって働きをしていくと、主の栄光がそこに輝くことをひしひしと感じる実習となっています。

7月までは八王子中野教会、8月から1月まではみずほ台教会で実習となります。母教会を離れ、2つの異なる教会で、あらゆる面から見て、学ぶことができる幸いを心から感謝いたします。残りの期間においても、神さまの御顔を恐れ、神さまが見させてくださる新しい景色に期待して臨みたいと思います。

◆インターンの学びの中で

もう逃げない

インターン生 大谷のぞみ

「主ご自身があなたに先立って進まれる。主があなたと共におられる。主はあなたを見放さず、あなたを見捨てない。恐れてはならない。おののいてはならない。」(申命記二一・8)

いつも神学院のために、尊いお祈りとサポートをいただいております。感謝申し上げます。



正規コースで学んでいる秋田郁美神学生

早いもので、あつという間にインターン生となりました。先生をはじめ、教会の方々に温かく迎えて頂き、申し訳ないほどに良くしていただいております、感謝しております。

しかし、自分の足りなさ、甘さのゆえではありますが、一か月半ほど、なかなかペースがつかめず、常に追われている感じでした。インターンのうちから、こんなにいっぱいいっぱい、大丈夫なのか？ そんな不安がこみ上げました。そんな中で冒頭の聖句が語られました。デイボーションナルの本を読んでいるときでした。「わたし先立って行くのだよ。私が一緒にいるのだよ。心配しなくて大丈夫。」神さまは必ずしてお見通しです。

◆前期の学びの中で

「私の福音」を目指し

正規コース 秋田郁美

いつも神学生のためにお祈りありがとうございます。また、5月は神学院創立記念の特別実習で、2つの教会で礼拝をとものにさせていただきました。大変感謝でした。

昨年までは聴講生でしたが、今年度から正規生となり、全ての授業を受講しています。これまでも教理や宣教師等を学んできましたが、初めてキリスト教史を取り、

歴史を学ぶことの大切さを感じております。キリスト教の歴史を知ることによって、現在のキリスト教会全体の立ち位置を確認し、また、自分自身の信仰についても考えることができます。

また、色々な授業を受けると、全ての学びに関係性があり、神学を学ぶ上でどれも欠くことのできないものだとわかります。今は色々な知識を得なくてはならない時であり、たくさん本も読まなければなりません。今はそれらの知識が頭の中をぐるぐると回っているような感覚で、整理ができていません。レポートを書いたり、説教を書いたりする中で、それら得た知識のかけたらちと、そこから導かれた自分の考えを言語化するという訓練もさせていただいています。今はまとまらない考えが、学びと訓練の中で整理され、やがては「私の神学」と呼べるような自分なりのものを得られるように願っています。

パウロは「私の福音によれば、神のさばきは、神がキリスト・イエスによって、人々の隠された事柄をさばかれるその日に行われるのです」(ローマ二・16)と云って、「私の福音」として、しっかりと自分の福音理解を表しています。福音には全ての人の必要に応えることのできる力があります。それを自分の言葉で伝えることができるように、神学的に整理をして言語化できるようにしたいと思います。

創立70周年記念改修工事

旧女子寮棟の改修工事が始まり
ました。骨組みを残して内部を改
修します。キャンプ、合宿、各種
委員会、霊修会などお使用いた
だけるようになります。



お風呂はシャワー室に



1階廊下 配水管を設置



食堂と厨房も改修



以前の男子寮玄関は食堂からの倉庫に



1階 土だった床下にコンクリート打設

同窓生の近況

41期生

岡山教会 ● 渡辺多実樹



福島で15年、岡山で10年、改め
て年が経つのは早いですね。いつ
しか福島弁より岡山弁の方がよく
口に出るようになりました。

先日突然、教会ではムードメー
カー的な愛兄が天に召されました。
まだ64歳でした。倒れる一週間前
の礼拝では元気なお姿と笑いに満
ちた会話で楽しく過ごしただけ
に、教会は大きなショックと喪失
感の中に置かれました。私は自責
の念にも囚われました。私は自責
の念にも囚われませんでした。牧師とし
てもっと色々できなかったか……。
神様の時の厳粛さが実感され、ま
た「すべてのことがともに働いて
益となる」という信仰が試されて
います。時の早さを言っていられ
ません。私の人生、残された時間
の方がはるかに短くなっています
し、それこそ、いつ召されるか分
からないのですから。これからの
一刻一刻はとも大切なものです。
そんな折、天に送りました愛兄を
思い出しながら、「いつも喜んで
いなさい。絶えず祈りなさい。す
べてのことにおいて感謝しなさい。
」(一テサロニケ五・16)に生
きるよう、改めて教えられました。

図書・資料の整理①

図書館 三森春生

図書館の主体は図書およびその
他の知的情報媒体(メディア)で
あることは、言うまでもありませ
ん。しかし、そうした資料をただ
収容しているだけなら、倉庫と変
わりありません。

昔、図書館は本のお蔵だと言わ
れました。個人の書齋(英語では
同じライブラリー)ならそれもあ
りましょうが、図書館ともなれば、
公共図書館はもちろん、学校図書
館なら学生・生徒が、その他団体
・企業等であれば、その構成員や
関係者が使いやすいように整理し
ておく必要があります。図書館で
は単なる整理整頓ではなく、一定
の秩序の下に系統立った整理が必
要です。それにはまず資料を分類
しますが、諸方式の中で情報内容
をコード付けする方法が最も多く
使われています。

神学院スタッフ...恵みの想起

学苑だより



●紫陽花の花が咲き乱れている梅
雨時の静かなキャンパスですが、
今年は少しにぎやかで、旧女子寮
棟改修工事が進められています。
●研修棟は8月上旬完成予定です。
完成後は、キャンプ、霊修会、委
員会など、研修・宿泊のために用
いていたことが可能です。
●YS全国大会の2日目に、献別
の祈りの時を持ちます。
●創立70周年記念第2期改修工事
に組み込まれていた本館耐震対策、
旧オルガン棟解体などはその後
に検討します。

●2019年5月の同窓会ホーム
カミングでは、改修後のキャンパ
スに皆さまをお迎えします。
●後援会のご好意をいただいた創
立70周年記念感謝献金は、先月献
金袋などをお届けしました。
●後援会では引き続き世話人のご
推薦をお願いしています。
●神学院祈り会は3日(火)です。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感
謝申し上げます。5月の会計
報告をさせていただきます。

5月分支援実状
〔今年度毎月献金目標〕
¥2,000,000

教会員による
「神学院サポート献金」
¥1,039,350
教会団体による「神学院献金」
¥627,435
合計 ¥1,666,785
その他の献金(一時・特別)
¥252,200

・振替：00230-0-10138

公報

本部通達

「朝にあなたの恵みを聞かせてください。私はあなたに信頼していますから。行くべき道知らせてください。私のたましいはあなたを仰いでいますから。」
 (詩篇一四三・8)

下半期に入りました。暑さが増し加わるなかですが、主を仰ぎ、朝ごとに新しく力を得て、ともに主のみこころの道を進ませてくださいましょう。

各教会、各教会で夏の諸プログラムのために多くの祈りと備えが積みまわっています。今年第6回目のユース・ステーションの全国大会が、改修された聖宣神学院を会場に、また第11回目の全国中高生「とにキャン」が、例年のように聖山高原で予定されています。

■本部
 (会議)
 23日(月)～24日(火)
 教団運営委員会

■総務局
 ▼事務処理を円滑にするため、月報送付の歳、表書きに「月報在中」と記していただくと助かります。
 ▼本部の会議室を使用される場合、担当者の負担軽減のため、「会議室使用申込書」に必要事項を記入(入力)の上、提出してください。

■国内教会局
 ▼今月末から各地域の聖会が始ま

ります。聖会の開催情報は下段のリストを参照してください。
 ▼引退、休養等の意向のある牧師は、8月末までにブロックアドバタイザーにお申し出ください。
 (教区関連)

▼静岡教区CS教師講習会
 日程：7月16日(月)
 講師：清田智子師
 会場：磐田教会

■世界宣教局
 ▼葛田就子宣教師(ケニア)は予定通り6月8日に帰国しました。巡回を希望する教会、聖会は担当の葛田敬子師までご連絡ください。
 《IWF関係》

▼6月25日(月)に、20日から来日しておられたWGM総理、副総理、アジア担当者とWGM宣教師たちと、IGM側代表者たちとの会談が行われました。今後、世界宣教のため相互に協力することを確認する、幸いな時でした。

■教育局
 (青年課)
 ▼第6回ユース・ステーション全国大会
 日程：8月12日(日)～14日(火)
 会場：聖宣神学院 定員60名
 講師：内山勝師
 テーマ：「Confidence」もって、自信を!

(中高生課)
 ▼第11回全国中高生とにキャン
 日程：8月14日(火)～17日(金)
 会場：聖山高原キャンプ場
 講師：川口竜太郎師(hi-ha.)
 テーマ：「The Goal」これが僕

らの歩む道」
 (会議)
 28日(土) YS実行委員会
 ■聖宣神学院
 ▼後援会関係
 創立70周年記念感謝献金を実施しています。お祈りとともに協力ください。各教会の世話人のご推薦をお願い致します。
 ▼信徒土曜講座が開講しました。いずれのコースも今からでもお申し込みが可能です。
 ・ペテロの手紙第1の学び(林正弘先生) 6月16日開講・5回コース
 ・続・キリスト教カウンセリング(河村從彦先生) 7月14日開講・4回コース
 ・教会つて何だろう?(矢木良雄先生) 10月6日開講・5回コース
 ・続・聖書読解法(河村從彦先生) 12月15日開講・4回コース
 ▼神学院祈り会 7月3日(火)午後6時から本部会議室で。
 ▼秋の入学審査は9月3日(月)に行います。必要な方は資料請求をしてください。
 ▼オープンキャンパスは、10月19日(金)～20日(土)の日程です。
 (各地域の聖会開催情報)
 ◇ポプラ聖会(北海道教区) 8月15日(水)～16日(木)
 講師：葛田康毅師
 会場：札幌教会
 ◇東北聖会
 7月31日(火)～8月2日(木)
 講師：朝比奈悦也師
 会場：八幡平
 ◇北関東聖会

9月23日(日)～24日(月)
 講師：小坂嘉嗣師(日本宣教会狭山キリスト教会)
 会場：日光オリープの里
 ◇東関東聖会
 8月7日(火)～8日(水)
 講師：小平牧生師(基督兄弟団西宮教会)
 会場：成田ビューホテル
 ◇林間聖会
 8月14日(火)～15日(水)
 講師：宮川浩二師(東京フリーメソジスト小金井教会)
 会場：YMCA東山荘
 ◇静岡聖会
 10月7日(日)～8日(月)
 講師：小平牧生師(基督兄弟団西宮教会)
 会場：磐田グランドホテル
 ◇中京聖会
 9月16日(日)～17日(月)
 講師：藤本満師
 会場：小牧勤労センター
 ◇北越聖会
 10月8日(月)
 (新潟) 長岡会場・長岡教会
 (北陸) 金沢会場・金沢教会
 ◇関西聖会
 9月16日(日)～17日(月)
 講師：鎌野善三師(日本イエス・キリスト教団西舞鶴教会)
 会場：シー・パール須磨
 ◇中国聖会
 9月24日(月)
 (松江) 松江教会
 講師：川嶋直行師
 (山口) 山口教会
 講師：朝比奈悦也師

◇四国聖会
 7月30日(月)～8月1日(水)
 講師：葛田崇志師
 会場：セントラルホテル鴨島
 ◇九州聖会
 8月21日(火)～23日(木)
 講師：古波津保秀師(チャーチ・オブ・ゴッド川崎教会)
 会場：阿蘇の司ビラパークホテル
 ◇沖縄聖会
 11月3日(土)～4日(日)
 講師：吉村和記師
 会場：那覇教会

■出版事業部
 ▼5月末に『祈りのネットワーク2018』が発行されました。全国の教会、教団の働き、引退された先生方を覚えてお祈りいただくために、ご活用ください。
 ▼「新改訳聖書2017」の発行後に生じた変更箇所と変更内容(本文、ルビ、注、レイアウト)につきましては、新日本聖書刊行会のホームページで確認できます。
<https://www.seisho.or.jp/s2017/modifications/> を参照。

消息報告



▼一木訓治先生・茂子先生の転居先は次の通りです。
 〒520-0113 大津市坂本7丁目17-7 湖風館 077-575-5608

▼大島あや子先生は健康調整のため、6月から休養中です。
 教報PDFパスワード＝4139